



## チョコレートの季節



一家計調査（二人以上の世帯・単身世帯）結果より

2月14日はバレンタインデーです。バレンタインデーの起源はローマ帝国の時代までさかのぼるとされ、西ヨーロッパでは古くから「恋人の日」として祝われてきました。

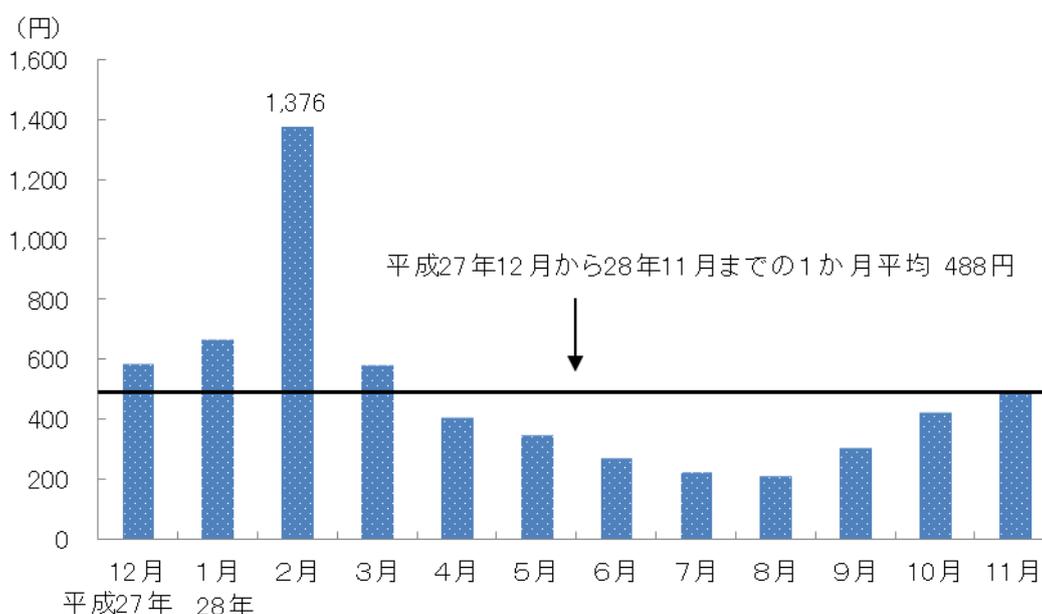
日本でこの日に女性から男性へチョコレートを贈ることが流行し始めたのは、一説には昭和33（1958）年ごろと言われています。その後、昭和40年代後半から50年代にかけて徐々に盛り上がりを見せ、慣習として定着し、今では2月14日が近づくと街中の至る所でチョコレートの宣伝を見かけることができます。

そこで今回は、チョコレートへの支出について家計調査の結果から見てみましょう。

### 2月のチョコレートへの支出額は年平均の2.8倍

最初に、チョコレートへの1世帯当たりの月別支出金額について、平成27年12月から28年11月までの1年間の結果を見てみると、28年2月の支出が1,376円と最も多くなっており、この1年間の1か月平均と比較すると、2.8倍となっています（図1）。

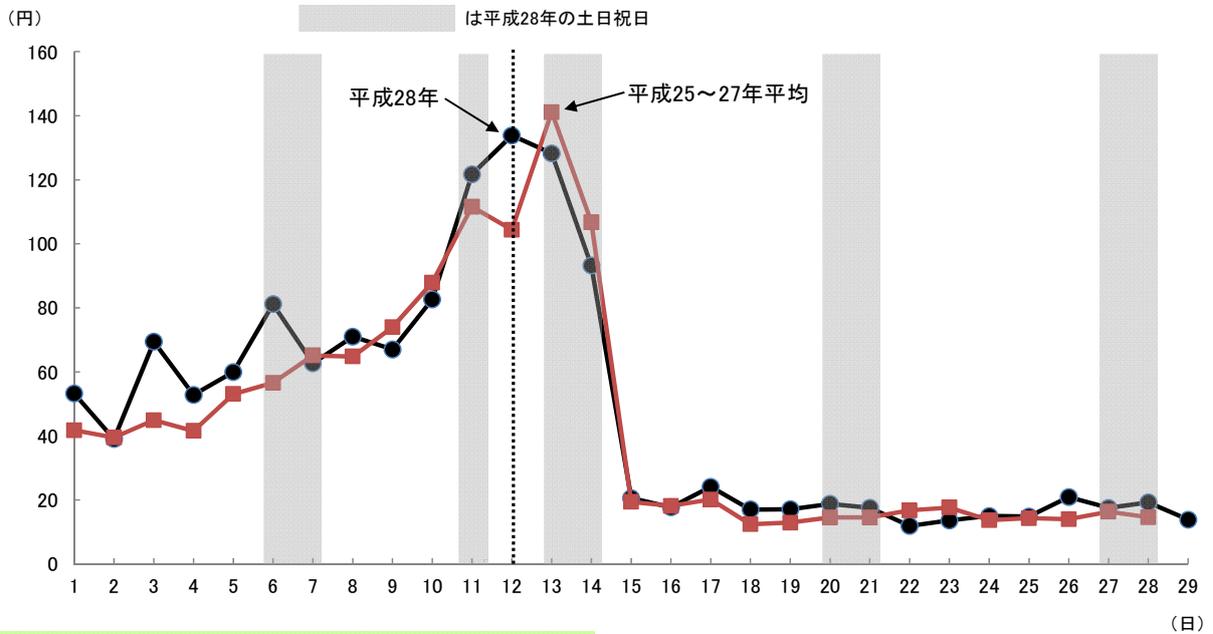
図1 チョコレートへの月別支出金額  
(平成27年12月～平成28年11月 二人以上の世帯)



## チョコレートの購入はバレンタインデー直前の平日が多い

次に、2月のチョコレートへの1世帯当たりの支出金額を日別に見てみましょう。平成25～27年の3か年の平均では、バレンタインデー前日の13日にチョコレートへの支出が最も多くなっています。しかし、平成28年は13日ではなく、12日に支出が最も多くなっています。これは、平成25～27年は13日が平日であったのに対し、平成28年は13日が土曜日であったため、12日(金)の帰宅時などにチョコレートを購入した世帯が多かったためと見られます(図2)。

図2 2月のチョコレートへの日別支出金額(二人以上の世帯)



## チョコレートは幅広い年代の女性が多く購入

最後に、単身世帯におけるチョコレートへの支出金額を男女、年齢階級別に見てみると、どの年齢階級においても女性の支出金額が男性を上回っています。特に35～59歳の階級では女性の支出金額は男性の3.2倍、34歳以下の階級では2.8倍と大きく上回っており、チョコレートは幅広い年代で男性よりも女性に多く購入されています(図3)。

図3 チョコレートへの男女、年齢階級別支出金額(平成27年 単身世帯)

